

# 世界の伝統舞踊、華やかに

もうすぐこどもの日。今回の「海を越えつなげる輪」は、県内で世界各国の伝統舞踊を学ぶ小中学生を紹介します。沖縄ではなかなか見られない舞踊に熱心に取り組む4組は「一人前のダンサーになりたい」「本場のダンスを見てみたい」と目標を掲げます。

## 「好き」原動力に練習励む

### フラメンコ

永山 初衣里さん (佐敷小5年)

閑静な住宅街に響く情熱的な音楽と靴の音。西原町津花波にあるリカルド島袋エスパニーヤ・フラメンコ・スタジオで練習に励む永山初衣里さん(10)＝南城市立佐敷小5年＝は2020年11月からこのスタジオに通っています。もともとヒップホップなどのダンスを習っていた初衣里さん。母・ゆりかさん(48)が大好きな映画のフラメンコを踊るシーンに魅了され、親子でフラメンコの世界に飛び込みました。

フラメンコはスペインの伝統舞踊。たっぷりとした裾のスカートを翻し、打ち鳴らすよう踏むステップは見る人を圧倒します。初衣里さんが今練習しているのはセビジャーナ

スというアンダルシア地方の春祭りの踊りです。初心者で最初に習う曲で1年ほどかけて習得します。講師の泉川由美さんの手拍子に合わせ、ゆりかさんと向き合い、ステップを繰り返します。「レッスンは特別な時間。ヒールの高い靴を履いて踊るから大人になった気分になれる」と笑顔で話します。

「これまで習ってきたダンスの中で一番フラメンコが好き」という初衣里さん。スペイン語や文化を学び、いつか現地で踊ることを夢見ています。「楽しみながらたくさん練習して、見る人を魅了できるダンサーになりたい」と力を込めました。

文・熊谷樹、写真・大城直也



はじける笑顔で「オレ！」と掛け声を掛ける永山初衣里さん＝西原町津花波



手作りの羽根飾りを身につけてポーズを決める城間文音さん＝琉球新報社

## 本場でのダンス目標に

### サンバ

城間 文音さん (大道小6年)

宮城サンバダンス教室に通う城間文音さん(11)＝那覇市立大道小6年＝はラテン音楽好きな母・靖子さんの勧めで4歳からサンバを始めました。「いつかブラジルで本場のサンバに触れたい」と練習に励みます。

サンバはブラジルの伝統芸能で、打楽器に合わせて激しく踏むステップが特徴です。教室ではサンバだけでなく、ブラジルポップスで踊るアシエ、ヒップホップなど幅広く学んでいます。文音さんが好きなのは少人数で踊る即興性の高いサンバジホーダ。「振り付け通りに踊るよりも自分で考えて踊るのが好き。かっこいいステップやポーズを決めるのが楽しい」と目を輝かせます。

サンバを始めて7年、那覇まつりのパレードやBEGINの「うたの白」コンサートのバックダンサーなど多くの舞台を踏んできました。一番心に残っているのは小2と小4で参加した東京・浅草サンバカーニバル。炎天下の東京で観衆が歩道を埋め尽くす中、1\*に近い道のりを踊り通しました。「観客が多すぎて緊張したし、体力も限界だったけど、とても楽しかった」と振り返ります。

「入見知りだったけど、サンバを習って少し積極的になった」と話す文音さん。「将来の夢は助産師。サンバもずっと続けて一人前のダンサーになりたい」とはにかみました。

文・熊谷樹、写真・文吉康秀



楽器のイブを手にポーズを取る(左から)渡慶次うららさん、比嘉乃苺さん＝那覇市大道

## 挑戦する楽しさで継続

### フラ

比嘉 乃苺さん・渡慶次 うららさん  
(古蔵中2年) (興南中2年)

時にゆったり、時に軽快に。ハワイの踊り・フラは見る人を南の島にいざないます。琉球新報カルチャーセンターの子どもハワイアンフラ教室に3歳から通う比嘉乃苺さん(13)＝那覇市立古蔵中2年、渡慶次うららさん(13)＝興南中2年＝は、毎週のレッスンを欠かさず頑張っています。「これからも続けたい」とひたむきに取り組んでいます。

比嘉さんは2学年上のお姉さんが習っているのを見て「きれいだな」と思っただけで始めました。渡慶次さんは、お母さんの勧めで教室に入りました。最初の頃はお母さんの膝の上で座り、じっと見ていたそうです。

フラは手踊りしながら腰を動か

し、ステップも踏みます。手の動きに集中していると、腰や足がうまく動いていなかったりと難しいこともあるといいます。それでも2人は練習熱心。「新しい踊りを教わると、頑張っただけで覚えたと思う」と比嘉さん。渡慶次さんも「練習してできるようになるとすごく楽しい」とはにかんだ笑顔を見せました。

こども舞踊大会や那覇まつりのパレードなどに出演した経験もあります。教室で指導する大山仙子さんは、2人のことを「とてもまじめ。普段は大人しいけれど、本番では笑顔でしっかり踊ってすごい」と高く評価していました。

文・高良利香、写真・大城直也

## 故郷の芸能伝えたい

### フォルクローレ

城間 アンジさん・城間 ジョアンさん  
(沖縄尚学中2年) (諸見小5年)

ペルーの民族舞踊フォルクローレ。沿岸地域のマリネラや黒人音楽が起源のフェステホ、アンデスに伝わるワイノなど多彩な芸能が受け継がれています。ペルー生まれの県系人の両親を持つ城間アンジさん(13)＝沖縄尚学中2年、ジョアンさん(10)＝沖縄市立諸見小5年＝は、海外にルーツのある仲間たちと元ディアンテスのパーティさんからフォルクローレを習っています。2人は「沖縄の人にもっとフォルクローレの魅力を伝えたい」と力を込めます。

物心ついた頃からフォルクローレに親しんできた2人。アンジさんは小3でアルベルト城間さんプロデュ

ースの音楽劇「オキナワラティナー」に参加して以来、本格的にフォルクローレを学び、さまざまな舞台で披露してきました。ジョアンさんはダンスだけでなくペルー発祥の打楽器・カホンも大好き。ジョアンさんの演奏に合わせて、家族で踊りを楽しんでいるそうです。

「将来の夢は産科医。医者でギタリストとしても活躍するグース外間のように、ダンスと仕事を両立したい」と話すアンジさん。ジョアンさんは「カホンとダンス、どちらも頑張りたい。スペイン語と英語と日本語を話せるので、将来は言語を生かした仕事をしたい」と目を輝かせました。文・熊谷樹、写真・喜瀬守昭



マリネラの衣装を身につけた姉・城間アンジさん(右)とワイノの衣装の弟・ジョアンさん＝沖縄市諸見里